

科目名称：	総合教養演習Ⅲ	
担当者名：	能 雄司	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>1年前期の「総合教養演習Ⅰ」では、総てのジャンルの基礎となる漢字力と一般常識（社会）、文章理解の力、そして判断推理、SPI2（言語・非言語）の各ジャンルについて、実際の問題に取り組んだ。初めての問題形式が多いため、解法の理解に重点を置いて解説することに多くの時間を費やし、冬休みと春休みには課題として大量の「練習問題」を課した。</p> <p>「総合教養演習Ⅲ」では、その「総合教養演習Ⅰ」で培った基礎力を更にレベルアップするために、可能な限り多くの演習問題に取り組み、自力で問題を解く応用力をつけるとともにスピードアップを図る。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>1年間の「総合教養演習Ⅰ」と「総合教養演習Ⅱ」で身に付けた基礎力を基に、後半は長時間集中して問題に取り組む「模擬試験」を体験する。また、「一般知能」のジャンルである「資料解釈」にも取り組み、知能試験の対応可能な幅を広げる。</p> <p>更に、模擬試験の解答時間の最初には、一次試験合格者に課される「適性試験」に取り組む体験をすることで、来るべき公務員試験及び企業の採用試験における「教養試験」で如何なく実力を発揮できるよう自信を持たせることを目的とする。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	0	85	5	10	100
ビジネスDP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

到達ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
毎回の授業課題(宿題)の取り組み	毎回総てをやってきた	1~2回抜けた	3回~5回抜けた	6回以上抜けた
毎回の授業への取り組み	毎回真剣に取り組み、説明をよく聞き、素早く理解する。	真剣な取り組み姿勢を感じずる場面があり、努力してついて来ている。	特別な積極性は見られないうが真面目に取り組んでいる。	時々睡魔に襲われるなどやや集中力に欠ける場面がある。
資料等配布物の整理・記入	要点を配布資料に色分けして記入し配布物はファイル化してある。	配布された資料に要点をメモ書きしてファイル化されている。	配布物はファイル化されてはいないが、ほぼ保管されている。	配布資料は一応保管されているが容易に取り出せない状態である。
(毎時)小テストの結果	95%以上	75~94%	50~74%	49%以下

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「総合教養演習Ⅲ」の体系の理解 (一般常識小テスト第16回-理科重要法則発明・発見・ディスカッション)	事前に配布してある「春休みの課題」に、すべてしっかり取り組んでおく	60分
第2回 一般教養-判断推理「虫食い算」,【小テスト-第1回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	前の時間の内容について復習して問題点を解決しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第3回 一般教養-判断推理「約束記号」,【小テスト-第2回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	前の時間の内容について復習して問題点を解決しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第4回 一般教養-判断推理「植木算」,【小テスト-第3回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	前の時間の内容について復習して問題点を解決しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第5回 一般教養-判断推理「資料解釈1」,【小テスト-第4回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	テキストにある「資料解釈」の問題に目を通しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第6回 一般教養-判断推理「資料解釈2」【例題演習】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	テキストにある「資料解釈」の問題に目を通しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第7回 一般教養-「回転図形・平面図」資料解説と演習 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	「回転図形・平面図」について、事前に予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第8回 一般教養-「軌跡・展開図・立方体個数・折り紙展開」 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	「回転軌跡・展開図」「立方体個数・折り紙展開」について、事前に予習しておく	60分
第9回 一般教養-PERT手法の資料解説と演習 春休み課題(判断推理)の解答と解説	「PERT手法」について、事前に予習しておく。 本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第10回 模擬(公務員)試験(1)	1年前期から取り組んできた全ジャンルの総復習と公務員試験の練習	60分
第11回 「適性試験」演習① 模擬(公務員)試験(1)の解答と解説	前回の模擬試験で自分の苦手ジャンルについて振り返り、解決しておく	60分
第12回 模擬(公務員)試験(2)	これまでの「公務員対策関連授業」での配布資料すべてに目を通しておく	60分
第13回 「適性試験」演習② 模擬(公務員)試験(2)の解答と解説	前回の模擬試験で自分の苦手ジャンルについて振り返り、解決しておく	60分
第14回 模擬(公務員)試験(3)	これまでの「公務員対策関連授業」での配布資料すべてに目を通しておく	60分
第15回 「適性試験」演習③ 模擬(公務員)試験(3)の解答と解説	前回の模擬試験で自分の苦手ジャンルについて振り返り、解決しておく	60分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、「公務員対策関連授業」での配布資料に目を通し、模擬試験で自分の苦手ジャンルについて振り返り、解決しておく。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 授業時間内小テスト30%・模擬テスト55%、家庭学習用課題5%、 授業に対する取り組み方(貢献・積極的関与、発表)10%で評価する。		
課題に対してのフィードバック		
授業内で実施した小テスト及び模擬試験は解答し、評価した後に返却する。「家庭課題」は次時に解答・解説する。		
教科書・参考書		
『最新最強の地方公務員問題』14年版』成美堂出版 成美堂出版編集部 2011年発行 その他、授業時間内に演習問題や必要な資料を配布して解説する。		